

事業活動実績報告書

施設名	学校法人清田学園 葛飾若草幼稚園
教育理念	・子ども一人ひとりの発達段階に即した保育を行う ・体験学習を通して豊かな心情や知的好奇心を高める
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	農作物収穫・自然遊び体験
2 実施期間	令和 6 年 5 月 10 日 ～ 令和 6 年 10 月 21 日

3 取組概要	(取組日) 令和 6 年 5 月 10 日 ～ 令和 6 年 5 月 10 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 埼玉県吉川市にある幼稚園の農園にて年長組が田植え体験(5/10)をする。 ・稲の苗を子どもたちが自ら田んぼの中で植える体験をする。 ・田植え体験後、泥遊び(泥団子作り、泥滑り等)を体験し、楽しむ。 ・昼食後、農園の周りを散策し、自然の植物に触れる。	
	(取組日) 令和 6 年 9 月 6 日 ～ 令和 6 年 9 月 6 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年長組が5月に田植え体験で植えた苗が、大きく成長したことを喜びつつ、稲を刈る収穫作業体験を楽しむ。 ・有志の保護者数名と職員と一緒に鎌を使って実際に稲を刈り、収穫を喜ぶ。 ・昼食後、農園の周りを散策し、自然の植物に触れる。	
	(取組日) 令和 6 年 9 月 9 日 ～ 令和 6 年 9 月 30 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 稲刈り体験後に、刈った稲を持ち帰り、幼稚園の玄関に稲を干し、他学年の子どもたちや保護者に見せる機会を作る。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 稲刈り後、精米したお米を給食にて全園児に提供し、収穫を喜ぶ。	

3 取組概要	(取組日) 令和 6 年 6 月 6 日 ~ 令和 6 年 6 月 6 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 埼玉県吉川市にある幼稚園の農園にて年中組が玉ねぎ収穫(6/6)を体験する。 ・玉ねぎを子どもたちが自ら畑の中で抜く体験をする。 ・収穫を体験後、プレハブ小屋や戸外で昼食を食べ、楽しむ。 ・昼食後、農園の周りを散策し、自然の植物に触れる。	
	(取組日) 令和 6 年 10 月 21 日 ~ 令和 6 年 10 月 21 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 埼玉県吉川市にある幼稚園の農園にて年少組がさつま芋収穫(10/21)を体験する。 ・さつま芋を子どもたちが自ら畑の中で抜く体験をする。 ・収穫を体験後、プレハブ小屋や戸外で昼食を食べ、楽しむ。 ・昼食後、農園の周りを散策し、自然の植物に触れる。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	

効果検証報告書

施設名	学校法人清田学園 葛飾若草幼稚園		
教育理念	・子ども一人ひとりの発達段階に即した保育を行う ・体験学習を通して豊かな心情や知的好奇心を高める		
事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現		
1 事業名	農作物収穫・自然遊び体験		
2 事業概要	農園での収穫体験・自然遊び体験		
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ・年長組:5月(田植え体験)・9月(稲刈り体験) ・年中組:6月(玉ねぎ収穫)・年少組:10月(さつま芋収穫) ●田んぼ・農地の管理や農作物の世話(管理)をしてくれる人員(約3人) ●農作物の育て方、収穫の方法、収穫後の作物の仕分けや片付け方法を指導してくれる方 ●収穫の際の園児の引率・誘導、補佐、 <u>手伝いの人員増員(有志の保護者を募る)</u> ● <u>収穫予備日を設ける</u>	
	事業後	3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) ・手伝いの人員を増員したことで、園児の補佐をしっかりとすることができた。 ・収穫予備日を設けたことにより、天候に左右されず実施することができた。 (改善点) ・農作物は、天候・気温によって大きく左右されてしまうため、専門家の知識と経験が必要である。
計画時	4 事業のねらい	・農作物の収穫体験をすることで、土に触れたり、自然を体験し、食物を収穫する喜びや大切さを学ぶ。 ・収穫物を幼稚園にて調理し、食育に繋げていく。	
	事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) ・幼稚園の農園での作物の収穫体験やその後の食育にも繋げることができた。 (改善点) ・農作物は、天候・気温によって大きく左右されてしまうため、農作物の高騰により、土壌改良に必要な肥料等の値上がりへの対応が必要。
	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・年長組:5月(田植え体験)・9月(稲刈り体験) ・年中組:5月(玉ねぎ収穫)・年少組:10月(さつま芋収穫) (各学年、実施予備日を設ける) ●稲の収穫後、全園児に分配し、更に給食の際に給食室で炊いたお米を提供し、収穫の喜びやお米の美味しさを味わう。 ●玉ねぎやさつま芋は、収穫後全園児に分配し、収穫の喜びを分け合う。 玉ねぎは、カレーパーティーで食材として使用し、全園児で食し、さつま芋は、自由保育時のおやつとして提供する。 それぞれ食育や食べ物への感謝の気持ちを育むことに繋がる。 <u>※安全を考慮して、玉ねぎ収穫終了後～8月の間にプレハブ小屋の修繕を行う。</u>	
	事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) ・実施予備日を設けたことで、天候に左右されず実施することができた。 ・予定していたプレハブ小屋の修繕は、工事が遅れ、R7年3月に行われた。 (改善点) 昨年度の反省を踏まえて実施したため、特に改善点は見受けられなかった。

計画時	6 環境構成	埼玉県吉川市にある自園の畑や田んぼにて実施 ・昼食や休憩をとるためのプレハブ小屋の設置 ・手洗い等で使用するための水道の設置 ・汚れた衣類等の洗濯のために洗濯機の設置 ・プレハブ小屋や畑周辺の掃除のための掃除道具類の設置 ・冬場に備えてお湯が使えるようにガス(給湯器)の設置 ・できるだけ自然の中での体験ができるように環境を整える(スズメバチやネズミ等の害虫駆除対策や周辺の安全管理)
	事業後 6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・園児が快適に過ごせる設備が整えてあることで、無理なく自然体験や収穫体験ができた。 (改善点) ・プレハブ小屋が経年劣化によって、3月に修繕予定。 ・次年度は新しいプレハブ小屋を利用する。
	7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・作物を収穫する楽しさを体験し、野菜に興味を抱くようになり、苦手意識が減少する。 ・田植えは、園児が手作業で苗を植え、手作業で稲刈り体験を行うことでお米や食に興味・関心を抱き、感謝の心・大事に食べようという心が育まれる。 ・自然の中で土や虫や草花に触れることで、感性や興味関心、探求心が育つ。 ・収穫する際に、子ども同士で協力・助け合い、連帯感を味わう。 ・収穫した作物を幼稚園や各家庭で皆で食し、収穫の喜びや味を味わう。 ・自然豊かな300坪近い広大な田んぼの泥土の中で、そりや滑り台を使った遊びや全身泥まみれになりながらの泥んこ遊びを楽しむことで日常保育では経験できない開放感や楽しさを存分に味わう。
	事業後 7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) ・作物を収穫する経験をし、野菜が苦手だった園児も少しずつ食せるようになった。 ・自然の中で収穫や自然体験をすることで、解放感や楽しさを味わうことができた。 (改善点) 昨年度の反省を踏まえて実施したため、改善点は特にありません。
	8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・学年毎に収穫する作物が異なるが、収穫できたことを喜び、楽しむ姿が見られた。今後も継続していく予定だが、肥料等の高騰により、作物の量を減らして対応する等、更に検討が必要。 ・農園を手伝ってくださる方々の高齢化により、作付けの時期も異なるため、実施日程の調節が今後必要。 ・人数や日程にもより、来年度は保護者も子どもと一緒に自由参加できるように調整していく。